DOI：10.2490/jjrmc.62.1164

REPORT

Jpn J Rehabil Med 2025；62：1164

第 31 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会

鹿児島市立病院リハビリテーション部　鶴川俊洋

第 31 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会（会長：藤田医科大学医学部循環器内科学　井澤英夫教授）が，2025 年 7 月 19～20 日にポートメッセなごやで「新しい世界とともに進む心臓リハビリテーション」をメインテーマとして開催されました．

名古屋駅からアクセスの良い会場で好天に恵まれ，初日朝の時点で約 6,000 名の参加者が受付に参集していました．会長講演では自らの臨床研究の歩み，心臓リハビリテーション標準診療プログラム作成の秘話，主軸である心不全診療における心臓疾患のリハビリテーション治療の重要性と未来への提言が熱く語られました．特別講演 4，シンポジウム 14，パネルディスカッション 12 などの多彩な企画に加え，過去最多の一般演題登録数であり，全会場が満席以上の状況でした．特に本医学会合同企画「集中治療における急性期リハビリテーション診療」では会場外まで立ち見の聴衆で埋まっていました．また心肺運動負荷試験関連の会場は常に熱気にあふれていました．今年会員総数 16,000 名超えとなった本学会ですが，今回は過去最多の約 6,400 名の現地参加者となり，広大な敷地の 4 施設の各会場や機器展示，全員懇親会は非常に盛況でした．

次回は聖路加国際大学大学院看護学研究科吉田俊子教授が初の女性・看護職会長として 2026 年 7 月 18～19 日に幕張メッセで学術集会を開催されます．

井澤英夫会長の開会挨拶

立ち見・行列の本医学会合同企画

日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション学会第 3 回学術集会

大阪医科薬科大学医学部総合医学講座リハビリテーション医学教室　佐浦隆一

北陸大学医療保健学部教授の大工谷新一大会長のもと，2025 年 7 月 19～20 日，金沢商工会議所にて開催された日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション（DX）学会第 3 回学術集会は「デジタル技術のヘルスケア・リハビリテーションへの応用」をテーマに掲げ，地域医療に根ざした実装型 DX の新潮流を感じさせる内容でした．

基調講演では，恵寿総合病院の神野正博先生が「地域医療の BCM/BCP を考える」と題し，能登半島地震における ICT・RPA・生成 AI 活用の実践を紹介，災害時にも医療を止めない仕組みづくりこそ DX の本質であると示されました．次に，特別講演では日本理学療法士協会の斉藤秀之会長が，「医療 DX への期待と日本理学療法士協会の方向性」と題して，教育・データ活用・チーム医療の推進を柱とする協会の DX 戦略を解説し，理学療法士に求められる「技術と人間性の両立」を強調されました．

一般演題・ポスター発表では，AI による脳卒中後の機能予後予測，RPA 導入による業務効率化，Power-BI®による可視化など，現場発の創意工夫が多数報告され，特に災害リハビリテーション支援アプリや発話量解析による社会参加評価など，DX が「人を支える技術」であることをあらためて実感させられました．

日本リハビリテーション医療デジタルトランスフォーメーション学会第 3 回学術集会ポスターと大工谷新一大会長

シンポジウム「ヘルスケア領域における DX の未来」では，医療・スポーツ・産業が交差し，DX の社会的意義が多角的に議論されました．

昨年の第 2 回大会が理念の共有であったとすれば，今年の第 3 回大会は実践の可視化であり，リハビリテーション医療の未来を切り拓く力強い一歩となりました．

第 4 回学術集会は 2026 年 7 月に「リハビリテーション医療 DX の現在地：臨床・教育・研究の最前線」をテーマに大阪府枚方市で開催されます．ぜひ，リハビリテーション医療 DX の現在地を確かめにお越し下さい．